

民間医療保険におけるリスク管理の課題

ニッセイ基礎研究所 明田 裕

1. 報告の概要

医療保険を中心とする第三分野の保険は、伝統的な死亡保険とは異なるリスクを有している。本報告では、そうしたリスクの実態を踏まえ、約定した支払を全うするための料率設定・商品設計、契約後の責任準備金積立、支払余力の確保など、主として経理面、財務面から見た医療保険のリスク管理の課題について論ずる。なお報告は、入院・手術時の定額給付を主たる給付とする典型的な医療保険(特約を含む)を念頭に置いて行なう。

本報告の構成は次のとおりである。まず第2節では、保険者にとっての医療保険のリスクの特質を死亡保険のそれと比較しつつ概観する。そうした特質を受けてどのようにそのリスクをマネージすべきかが本報告の主題であるが、第3節では商品設計・料率設定時の問題について、第4節では責任準備金の積立など引受後の事後的な問題について、それぞれ述べる。最後の第5節では、金融庁に設けられた検討チームの報告が昨年7月に提出され、今年3月に規制化された「第三分野の責任準備金積立ルール・事後検証等について」(主として第4節の内容に関連)を概観し、報告者なりの意見、感想を述べる。

2. 医療保険の引受リスクの特質(死亡保険と比較しつつ)

- ・基礎率たる発生率が多様・複雑であるとともに不明確・不安定。
- ・加入後のモラルハザードが働きやすい。
- ・現時点で実際にどのような基礎率が使われているかは不明。

3. 料率設定・商品設計時のリスク管理

- (1) 基礎率・料率設定時の課題
 - (2) 死亡給付と解約返戻金の設計
- ・死亡給付の設計と予定死亡率の設定

【平成 18 年度日本保険学会大会】

シンポジウム「民間医療保険の課題と将来」
報告要旨：明田 裕

- ・無解約返戻金型商品の課題
- （3）基礎率・料率以外の商品設計
- ・保険期間の短期化
- ・基礎率変更権、給付条件変更権の留保
- ・加入後の逆選択への事前対応－無事故給付金、無事故時の保険料割引等

4. 料率設定後の（事後的な）リスク管理

- （1）発生率のモニタリング
- （2）責任準備金の適正な積立
- ・事後検証による積み増し
- ・標準責任準備金制度適用の検討
- （3）支払余力の確保（ソルベンシーマージン基準、危険準備金）
- （4）再保険の活用

5. 「第三分野の責任準備金積立ルール・事後検証等について」

- （1）昨年 7 月の報告書の概要
- （2）新たに設けられた規制の概要
- （3）報告者なりの意見、感想